

住民等説明会要旨

1 説明会 エネルギー回収型一般廃棄物処理施設・新最終処分場住民説明会

2 開催日時 令和2年11月6日（金）午後6時30分から午後7時55分まで

3 開催場所 刈生沢コミュニティセンター

4 参加者 17人

5 事務局

佐藤善仁副管理者、高橋邦夫副管理者、村上秀昭事務局長、小野寺啓総務管理課長、小野寺正行一関清掃センター所長、菅原彰大東清掃センター所長、吉田健総務管理課施設整備係長、中村謙介総務管理課主査、一般財団法人日本環境衛生センター6名（以下、日環センター）

6 説明

- (1) 第3回説明会の概要について
- (2) 検討状況について
- (3) 今後の予定について
- (4) 情報提供「今日の一般廃棄物処理施設」

7 あいさつ

お忙しい中お集まりいただき感謝申し上げます。

参加者には新型コロナウイルス感染症対策としてのマスクの着用、入り口での手指消毒、体温計測などにご協力をいただき、感謝申し上げます。

本日は、前回9月に開催した第3回説明会以降に検討してきた新処理施設及び新最終処分場の施設規模の案、新処理施設で回収するエネルギー量の見込み、施設整備候補地の評価の案について説明する。

候補地の評価については、検討した全ての評価項目の評価作業を終えた状況を案として説明するが、組合として建設候補地を絞り込むためには、構成市町である一関市及び平泉町との協議などを経る必要があり、年内に絞り込みを終えることを目標としている。

多くのご質問、ご意見をいただきたい。

8 説明内容

(1) 前回の住民説明会の概要について

令和2年11月発行組合広報誌「くらしの情報」により事務局から説明した。

(2) 検討状況について

① 新処理施設の施設規模（案）について

焼却対象ごみの将来推計から計算し、1日当たりの処理能力を106トンの施設規

模とする案を説明した。

② 新最終処分場の施設規模（案）について

埋立量の将来見込から計算し、埋立容量を126,800立方メートルの施設規模とする案を説明した。

③ 新処理施設のエネルギー量の見込みについて

①の施設規模案から見込まれるエネルギーの種類と量の見込について説明した。

④ 候補地の評価（案）について

新処理施設と新最終処分場の整備候補地の評価について、予定していた評価作業が完了したことから、新処理施設は「弥栄字一ノ沢ほか」が、新最終処分場は「千厩字北ノ沢ほか」が最適な整備候補地であるとした評価案の内容を説明した。

(3) 今後の予定について

(2)と合わせて事務局より説明した。

(4) 情報提供「今日の一般廃棄物処理施設」

日環センターより情報提供を行った。

9 質疑応答

参加者 新最終処分場用地を造成するとき、用地の下流に対する雨水対策は行われるのか。

事務局 新最終処分場は、防災調整池を整備して下流に流れる雨水の量を調整する。造成工事と防災調整池の整備は同時に進められると思うが、工事中においても下流に影響がないような対策を講じる。

参加者 新処理施設の規模の案が日量106トンということだが、106トン焼却した場合、焼却灰の発生量、資源化される焼却灰の量、最終処分場に運ばれる焼却灰の量はそれぞれどの程度になるのか。

事務局 焼却灰の発生量は、焼却するごみの性状によっても違いが生じる。一般的には焼却により重量で10分の1程度、体積で20分の1程度になることが多い。

新処理施設の1日当たりの処理量は、災害廃棄物の処理を想定して106tと考えたが、通常分としては98トン程度。焼却灰の発生量は、その10分の1の10トン程度と思われる。

焼却灰は、現在もセメントの原料に利用しており、その量は年間で1,000トン程度である。

参加者 土質改良が必要との評価をされた候補地があるが、土質改良にはどのような方法があるのか。

事務局 最終処分場整備候補地の「金沢字長沢ほか」は、粘土質の比較的柔らかい土質

であり地耐力が比較的低い場所になる。改良は、セメント系やフライアッシュなどの固化材により固めるような改良をすることが多いが、土壌を入れ替える置換などの工法を行う場合もある。土質改良の工法には多くの種類があるが、経済性や工期などを比較して、状況に応じた工法を選択することになる。

参加者 候補地の評価案の中で最適と評価された候補地以外が建設候補地に選ばれることはあるのか。

事務局 それぞれの候補地は、候補地選定委員会で選定したものであり、全て施設の整備に適した場所である。候補地から1か所の建設候補地を絞り込むため、施設整備方針から評価項目を検討してきたものであり、評価項目も案である。本日は、この評価項目案の評価作業を終えた状況を評価案として説明したものである。

参加者 現在の最終処分場3か所の所在地は、山の中である。跡地利用として、太陽光発電施設用地とすることが最良であると思う。検討をお願いします。

事務局 現在、当組合で管理運営している廃棄物処理施設は、老朽化や埋立完了などにより役割を終えれば廃止することになる。その時期はまだ先になるが、施設の跡地をどう利用するかは、地域の方と協議しながら決めていきたい。

参加者 最終処分場の候補地の評価項目に「利用者の利便性」があり、2車線道路からの距離により評価されている。どのような規格の道路を計画しているのか。

事務局 最終処分場に出入りするのは、ほとんどが当組合の車両であり、1日に3往復程度の交通量と想定している。その車両が通行する道路は、対面通行ができることが必要だと思っているが、どのような道路とするかは施設周辺地域との相談の上で検討したい。

参加者 本日、最適となる候補地の案が示された。今後どのような手続きを経て施設の建設場所が決定されるのか、スケジュールを教えてください。

また、岩手県ごみ処理広域化計画では、両磐地区と胆江地区は県南ブロックとして1施設に集約する計画だが、震災のために凍結している。今後、どのように進められるのか。

事務局 本日は、候補地の評価作業が終わったことから、状況について案として説明したところであり、この先、組合として建設候補地を決定する手続きがある。また、構成市町である一関市と平泉町との協議も必要である。これまで客観的に進めてきた評価の作業に、政策としての意思が載せられると思っている。そういったものを踏まえて、年内の絞込みを目指している。

現在、両磐地区では施設の整備を進めており、胆江地区の施設も改良整備が進んでいる。県南ブロックで施設を集約して広域化する時期が来ることもあると思

うが、その時期は全くの未定である。

10 担当課 総務管理課

住民等説明会要旨

- 1 説明会 エネルギー回収型一般廃棄物処理施設・新最終処分場住民説明会
- 2 開催日時 令和2年11月7日（土）午前9時30分から午前11時25分まで
- 3 開催場所 マリアージュ
- 4 参加者 35人
- 5 事務局

佐藤善仁副管理者、高橋邦夫副管理者、村上秀昭事務局長、小野寺啓総務管理課長、小野寺正行一関清掃センター所長、菅原彰大東清掃センター所長、吉田健総務管理課施設整備係長、中村謙介総務管理課主査、一般財団法人日本環境衛生センター6名（以下、日環センター）

6 説明

- (1) 第3回説明会の概要について
- (2) 検討状況について
- (3) 今後の予定について
- (4) 情報提供「今日の一般廃棄物処理施設」

7 あいさつ

お忙しい中お集まりいただき感謝申し上げます。

参加者には新型コロナウイルス感染症対策としてのマスクの着用、入り口での手指消毒、体温計測などにご協力をいただき、感謝申し上げます。

本日は、前回9月に開催した第3回説明会以降に検討してきた新処理施設及び新最終処分場の施設規模の案、新処理施設で回収するエネルギー量の見込み、施設整備候補地の評価の案について説明する。

候補地の評価については、検討した全ての評価項目の評価作業を終えた状況を案として説明するが、組合として建設候補地を絞り込むためには、構成市町である一関市及び平泉町との協議などを経る必要があり、年内に絞り込みを終えることを目標としている。

多くのご質問、ご意見をいただきたい。

8 説明内容

- (1) 前回の住民説明会の概要について

令和2年11月発行組合広報誌「くらしの情報」により事務局から説明した。

- (2) 検討状況について

- ① 新処理施設の施設規模（案）について

焼却対象ごみの将来推計から計算し、1日当たりの処理能力を106トンの施設規

模とする案を説明した。

② 新最終処分場の施設規模（案）について

埋立量の将来見込から計算し、埋立容量を126,800立方メートルの施設規模とする案を説明した。

③ 新処理施設のエネルギー量の見込みについて

①の施設規模案から見込まれるエネルギーの種類と量の見込について説明した。

④ 候補地の評価（案）について

新処理施設と新最終処分場の整備候補地の評価について、予定していた評価作業が完了したことから、新処理施設は「弥栄字一ノ沢ほか」が、新最終処分場は「千厩字北ノ沢ほか」が最適な整備候補地であるとした評価案の内容を説明した。

(3) 今後の予定について

(2)と合わせて事務局より説明した。

(4) 情報提供「今日の一般廃棄物処理施設」

日環センターより情報提供を行った。

9 質疑応答

参加者 狐禅寺地区に新たな処理施設の整備を提案していたときの資料に、「焼却施設等の設置に関する考え方について」という平成26年10月20日の記者会見資料がある。現在進めている新たな施設の整備計画は、これを踏まえて進んでいるのか。

事務局 お話の資料は、狐禅寺地区に新たな処理施設の整備を提案していた当時のものである。当時は、新たな処理施設の処理方式を焼却方式として提案し、様々な新しい技術や環境対策、安全対策を積極的に取り入れて施設整備を進めるという趣旨であった。

現在進めている整備事業では、新処理施設の処理方式は、焼却方式を前提とせず国内で実績のある全ての処理方式を対象として比較評価を行い、新最終処分場の施設形式をどうするかなどをゼロベースから検討を始めた。

そのため、その時点で最良の選択をし、新しい価値を見出していくという観点では違いはないが、当時は焼却方式を前提としての進め方であったのに対し、今はゼロベースからの検討であるという点で違いがある。

参加者 最終処分場の評価項目の「利用者の利便性」において、「金沢字長沢ほか」と「長坂字長平ほか」は、「二車線道路からの距離が比較的長く、利便性が低い」と評価されているが、その距離は具体的にどの程度なのか。

事務局 二車線道路からの距離は、「金沢字長沢ほか」が1.5キロメートル程度、「長坂字長平ほか」が1.5から1.6キロメートルである。

参加者 最終処分場の候補地の評価から判断して、「千厩字北ノ沢ほか」で決まったと解釈してもいいのか。

また、現在の大東清掃センターや東山清掃センターは廃止するのか。

事務局 本日示したのは、施設整備検討委員会で客観的、事務的に評価を行った内容であり、この後、構成市町である一関市や平泉町との協議を経て、年内に組合として1か所に絞込みを行いたい。大きな経費を投じる事業であり、政策的見地からの検討が行われるものと考えている。そのため、まだ決定したものではない。

また、新処理施設については、既存の一関清掃センターと大東清掃センターを統合して整備するものであり、将来的には既存の2施設は廃止することになる。ただし、リサイクル施設について扱いが決まっていないので、その取り扱いはこれからの検討となる。最終処分場については、現在3施設あるが、残余容量が少なくなってきたので、残余容量が無くなり次第、新最終処分場に埋立てを開始することになる。

参加者 全国的に最終処分場の残余年数が問題になっている。新最終処分場ができるまで5年以上あるが、現在3か所ある最終処分場の容量は間に合うのか。容量が無くなるまでの残余年数を教えてほしい。

事務局 既存3か所の最終処分場の埋立てが完了するのは、舞川清掃センターが令和8年、花泉清掃センターが令和5年、東山清掃センターが令和6年という予測を以前にしているが、その後に焼却灰のセメント原料化などにより埋立量を減量し、施設の延命化を図っている。そのため、以前に予想した終了年度よりも遅らせることができると思っている。

参加者 千厩の候補地周辺の河川にボックスカルバートが16個設置してある。車両の通行のためであれば8個で間に合うのにその倍である。また、トランスなどの電気工事や、光ファイバーの工事が行われている。これは、千厩に施設を整備するための準備ではないか。専門家もそのように話をしている。

事務局 それらの工事は、どれも新最終処分場とは全く関係がない。

ボックスカルバートの設置は、北ノ沢4号線の工事に伴うものであるが、その個数を設置した理由までは調べていないので、市の担当部署から詳しく確認した上で、次回の説明会で説明したい。

市内全域には、市が整備した地域イントラネットのネットワーク網があり、テレビ難視聴対策に使われるほか、市内の公共施設を結んでいる。地域イントラネットの光ファイバーは、電力柱や電話柱を使って敷設しているため、電力柱や電話柱の移設に伴い光ファイバーも移設工事が市内の様々な場所で随時行われている。

る。

最終処分場の工事は、造成だけではなく水処理施設の工事や電気工事がある。電気工事は、施設の工事の中でも最後の最後になる。設計もできていない状況で進めることはない。

参加者 エネルギーを回収して利用するとのことだが、初期費用や維持管理、最終処分費を含めて考えた場合、収支は合うのか。国の補助金を活用しても、施設整備には市民の税金が大きく投じられることになると思う。

事務局 国の交付金は、通常の施設では事業費の3分の1の交付だが、エネルギー回収設備の分については事業費の2分の1の交付が受けられる。その他、地方債を発行するが、この地方債の返済に要する金額の47パーセント程度は地方交付税で財政措置がある。

経費的に収支が合うか否かについて試算はしていない。試算を行った際にはお知らせしたい。

参加者 学校から1キロメートル離れていないこと、住宅街に近いことから、「千厩字北ノ沢ほか」の候補地に反対している。最終処分場の評価項目「景観との調和」では優劣はないと評価しているが、住宅のことを考慮しないで評価したのか。

事務局 「景観との調和」では、施設が整備された場合の景観に対する影響を比較検討し、特に課題があると思われる候補地はなかったため、優劣はないと評価した。

また、学校が近いことや、住宅が近いことなどについての検討はしているが、その検討の状況を全て配布資料に載せてはいないので、詳しい内容について、今後ホームページなどで公開していく。

参加者 ホームページで委員会の資料を見たが、候補地の近くに住宅があることについて話し合っていないのではないのか。候補地周辺の住民に対する配慮はないのか。

事務局 候補地を選定した候補地選定委員会において、学校からの距離や近傍の状況について選定の条件としている。現在は廃止されている旧建設省の通知に、廃棄物処理施設と学校の距離を300メートル以上離すようにというものがあり、候補地選定の条件にもしている。

施設の整備候補地の絞込みのための評価を検討するに当たり、始めにどのような施設を整備するべきかを考えた。それが施設整備方針としてまとめたものであり、それぞれの区分を満たすためには、どういう場所に整備すればいいのかを考え、評価の項目を設定した。評価項目に環境についての項目はあるが、住宅からの距離という観点での評価はない。いただいた意見を踏まえ、検討したい。

参加者 年内に絞り込むとのことだが、候補地となった周辺地域には連絡があるのか。

事務局 組合として絞り込んだ際には、当然に説明会などの対応をとることになる。

参加者 候補地を選定した際の経過、委員会の委員について周知してほしい。

事務局 第1回説明会でも説明したものであり、候補地選定委員会の報告書を組合のホームページで公開しているのでご覧いただきたい。

10 担当課 総務管理課

住民等説明会要旨

- 1 説明会 エネルギー回収型一般廃棄物処理施設・新最終処分場住民説明会
- 2 開催日時 令和2年11月7日（土）午後1時30分から午後3時まで
- 3 開催場所 一関市産業教養文化体育施設アイドーム
- 4 参加者 12人
- 5 事務局

佐藤善仁副管理者、高橋邦夫副管理者、村上秀昭事務局長、小野寺啓総務管理課長、小野寺正行一関清掃センター所長、菅原彰大東清掃センター所長、吉田健総務管理課施設整備係長、中村謙介総務管理課主査、一般財団法人日本環境衛生センター6名（以下、日環センター）

6 説明

- (1) 第3回説明会の概要について
- (2) 検討状況について
- (3) 今後の予定について
- (4) 情報提供「今日の一般廃棄物処理施設」

7 あいさつ

お忙しい中お集まりいただき感謝申し上げます。

参加者には新型コロナウイルス感染症対策としてのマスクの着用、入り口での手指消毒、体温計測などにご協力をいただき、感謝申し上げます。

本日は、前回9月に開催した第3回説明会以降に検討してきた新処理施設及び新最終処分場の施設規模の案、新処理施設で回収するエネルギー量の見込み、施設整備候補地の評価の案について説明する。

候補地の評価については、検討した全ての評価項目の評価作業を終えた状況を案として説明するが、組合として建設候補地を絞り込むためには、構成市町である一関市及び平泉町との協議などを経る必要があり、年内に絞り込みを終えることを目標としている。

多くのご質問、ご意見をいただきたい。

8 説明内容

- (1) 前回の住民説明会の概要について

令和2年11月発行組合広報誌「くらしの情報」により事務局から説明した。

- (2) 検討状況について

- ① 新処理施設の施設規模（案）について

焼却対象ごみの将来推計から計算し、1日当たりの処理能力を106トンの施設規

模とする案を説明した。

② 新最終処分場の施設規模（案）について

埋立量の将来見込から計算し、埋立容量を126,800立方メートルの施設規模とする案を説明した。

③ 新処理施設のエネルギー量の見込みについて

①の施設規模案から見込まれるエネルギーの種類と量の見込について説明した。

④ 候補地の評価（案）について

新処理施設と新最終処分場の整備候補地の評価について、予定していた評価作業が完了したことから、新処理施設は「弥栄字一ノ沢ほか」が、新最終処分場は「千厩字北ノ沢ほか」が最適な整備候補地であるとした評価案の内容を説明した。

(3) 今後の予定について

(2)と合わせて事務局より説明した。

(4) 情報提供「今日の一般廃棄物処理施設」

日環センターより情報提供を行った。

9 質疑応答

参加者 候補地を絞り込んだ後、決定する時期はいつになるのか。

また、住民に対してどのように周知するのか。

事務局 本日は、施設整備検討委員会で検討した客観的な評価の結果を説明した。この後、構成市町である一関市と平泉町との協議を経て、組合としての意思形成を行い、年内に示したい。建設のためには、計画を定め、予算を組み、議会で議決をいただくという手続きがある。また、候補地周辺の住民の皆さんからご理解をいただくことも必要となるものであるが、年内に予定しているのは、組合として、1か所に絞り込むことまでである。

参加者 今の候補地は、あくまでも案であり、これから地権者からの了解を得ることが第1段階となると思う。地権者から反対があり、了解が得られなかった場合、どのように進めるのか。

事務局 地権者の同意なしには事業を進めることはできない。今後、地権者に説明する機会を設けたいと考えているので、その中でしっかりと説明をし、理解をいただけるよう努めたい。絞り込んだそれぞれの候補地は、施設整備に最適な場所であり、同意が得られなかった場合は他の場所というものではないと思っている。

参加者 以前に進めていた狐禅寺での施設整備では、計画を断念した経緯があったが、今回はそのようなことはないという確信を持つての候補地の案なのか。

事務局 候補地の絞り込みは組合としての案であり、事業が中断する可能性がないわけで

はない。選定委員会が選定し、検討委員会で絞り込んだ結果、候補地となる場所であり、一関市と平泉町の住民にとって最も利益のある最適な場所と考えている。そういった意味からも理解を得られるよう、説明を尽くしたい。

参加者 今後、候補地周辺の住民や地権者などと協議をする際、余熱活用施設の計画案を施設の建設が決まってから示すということではなく、方針や考え方を示しながら進めてほしい。

事務局 これまで行ってきた住民説明会は、決まったことを説明する場ではなく、その時点での検討状況を説明し、それに対する意見をいただき、いただいた意見を基に再度検討するというサイクルで進めてきた。今後も協議をしながら進めていきたい。

参加者 情報提供の中に、最終処分場の跡地利用についての説明があったが、跡地利用とはどういうことか。

事務局 最終処分場は、埋立てが終了し、決められた廃止基準を満たした後に施設を廃止することになる。跡地利用とは、埋立てが終了した後にその土地を有効利用することであり、埋め立てている最中に施設の一部で何かをするものではない。

参加者 新処理施設は、エネルギー回収型の施設になるが、回収するエネルギーを利用する施設や規模について、具体的な見通しはあるのか。

事務局 今回は、施設で回収できるエネルギーを試算した内容を説明した。具体的な利活用の方法は、全国的な事例を日環センターから説明した。新処理施設で回収するエネルギーの具体的な利活用の方法は、これから検討していくことになる。

参加者 新処理施設の稼働率が76.7%、調整稼働率が96%となると、総体としては73.6%程度の稼働率となるが、施設が稼働しないときはエネルギーの供給はどうなるのか。

事務局 廃棄物処理施設は、点検などをしながら稼働させる必要があり、その稼働日数を年間で280日と見込み、残りの日数は点検などのために休止する。

エネルギーの利活用について、具体的な施設の検討はしていないが、施設の休止期間は、電気の供給先であれば使用する施設は民間から購入し、温水の供給先であればボイラーなど補完的な設備を備えるなどの対応になる。

参加者 エネルギーを回収して利活用するという基本方針が変更されることはないのか。

事務局 エネルギーを回収し、利活用を図っていくということは、今回の施設整備の方向性の一つなので、その方向性には変更はない。

新処理施設の処理方式は、主として焼却方式を選んだが、今日において焼却という表現は使われなくなっている。国では熱回収施設と表現し、熱を回収するこ

とで財政支援をする。国の施策では、エネルギー利用率が国の基準を満たしていれば交付金を交付し、国の基準よりも効率的な取り組みをしていれば交付割合を増やすという制度を整えている。

現在は、土台となる案をつくり、すぐに設計に進むのではなく、環境影響評価という手続きを踏まなければならない。環境影響評価は、3年ほど時間をかけて住民の意見をいただきながら進めるものであり、そこでいただいた意見は事業にも反映されることになる。

参加者 候補地の絞込みのための評価について、評価項目ごとに優劣が評価されているが、評価項目ごとの重み付けは必要ないのか。

事務局 施設の整備に当たり、施設としての望ましい形を施設整備基本方針として定めた。候補地の評価に当たっては、この基本方針の区分ごとに、どのような条件であれば、基本方針の各区分を達成できるか考えた上で評価項目を検討した。

そのうち、想定地権者数や想定筆数などは、数字上の差異はあるが、その違いが事業を進める上でどの程度の差があるかを考えた場合、優劣はないという評価をしている。一方で、候補地ごとの差をはっきりと評価の差としている項目もある。このような形で評価項目ごとに重み付けはしている。

なお、基本方針の各区分は、どれも大切なものと考えており、区分間における重み付けはしていない。

10 担当課 総務管理課

住民等説明会要旨

1 説明会 エネルギー回収型一般廃棄物処理施設・新最終処分場住民説明会

2 開催日時 令和2年11月7日（土）午後6時から午後7時15分まで

3 開催場所 滝沢市民センター

4 参加者 13人

5 事務局

佐藤善仁副管理者、高橋邦夫副管理者、村上秀昭事務局長、小野寺啓総務管理課長、小野寺正行一関清掃センター所長、菅原彰大東清掃センター所長、吉田健総務管理課施設整備係長、中村謙介総務管理課主査、一般財団法人日本環境衛生センター6名（以下、日環センター）

6 説明

- (1) 第3回説明会の概要について
- (2) 検討状況について
- (3) 今後の予定について
- (4) 情報提供「今日の一般廃棄物処理施設」

7 あいさつ

お忙しい中お集まりいただき感謝申し上げます。

参加者には新型コロナウイルス感染症対策としてのマスクの着用、入り口での手指消毒、体温計測などにご協力をいただき、感謝申し上げます。

本日は、前回9月に開催した第3回説明会以降に検討してきた新処理施設及び新最終処分場の施設規模の案、新処理施設で回収するエネルギー量の見込み、施設整備候補地の評価の案について説明する。

候補地の評価については、検討した全ての評価項目の評価作業を終えた状況を案として説明するが、組合として建設候補地を絞り込むためには、構成市町である一関市及び平泉町との協議などを経る必要があり、年内に絞り込みを終えることを目標としている。

多くのご質問、ご意見をいただきたい。

8 説明内容

(1) 前回の住民説明会の概要について

令和2年11月発行組合広報誌「くらしの情報」により事務局から説明した。

(2) 検討状況について

① 新処理施設の施設規模（案）について

焼却対象ごみの将来推計から計算し、1日当たりの処理能力を106トンの施設規

模とする案を説明した。

② 新最終処分場の施設規模（案）について

埋立量の将来見込から計算し、埋立容量を126,800立方メートルの施設規模とする案を説明した。

③ 新処理施設のエネルギー量の見込みについて

①の施設規模案から見込まれるエネルギーの種類と量の見込について説明した。

④ 候補地の評価（案）について

新処理施設と新最終処分場の整備候補地の評価について、予定していた評価作業が完了したことから、新処理施設は「弥栄字一ノ沢ほか」が、新最終処分場は「千厩字北ノ沢ほか」が最適な整備候補地であるとした評価案の内容を説明した。

(3) 今後の予定について

(2)と合わせて事務局より説明した。

(4) 情報提供「今日の一般廃棄物処理施設」

日環センターより情報提供を行った。

9 質疑応答

参加者 新処理施設の余熱を活用する施設の事例や、最終処分場の跡地利用として緑地公園や運動公園の事例の紹介があった。処理施設などの整備費だけでも財政的負担が大きいと思うが、それに加えて余熱活用施設などの計画はあるのか。

事務局 新処理施設で回収されるエネルギー量の試算について説明をしたが、これを有効利用することを基本とした整備計画である。利用方法は、新たに整備する施設で利用するだけではなく、売電などいろいろな方法があり、具体的なことはこれから検討していく。

また、新最終処分場の跡地利用については、全くの白紙である。現在、3施設ある最終処分場の残余容量が残りわずかとなっているが、跡地については今後その地域と協議しながら検討していくことになるので、どういう形で利用するかは決まっていない。

参加者 新処理施設も新最終処分場も優位な候補地が決まったようだが、今後、最終決定までにこの状況が覆される要素は考えられるのか。

事務局 施設の整備場所の検討に当たり、始めにどのような施設を整備すべきかを考えた。それが施設整備方針としてまとめたものであり、それぞれの区分を満たすためには、どういう場所に整備すればいいのかを考え、評価の項目を設定した。

本日の午前中にマリアージュ会場で説明をした際、住宅からの距離は評価項目としないのかという意見があり、これを評価に加えたいと考えていた。

この説明会は、組合が考えた内容を説明する場であるとともに、意見をいただく場として開催してきた。そのため、評価の方法に対する皆様の意見などをいただき、新たに加えるべき評価項目などを加えた結果、評価結果が変わることもあるかと思う。

参加者 最終的には、地権者の合意が候補地の決定になると思う。現時点での地権者との協議の予定はどうなっているのか。

事務局 現時点では、地権者との個別の協議は行っていない。第3回の説明会以降は、地権者となる可能性のある方々に、説明会の案内を個別に送付している。

今後、組合として1か所に絞込みをした後は、まずは地元の方々に説明を行い、その次に地権者の方々に対する説明をしたいと考えている。

参加者 新処理施設は、家庭ごみを中心とする一般廃棄物を処理する施設であるため、周辺に与える影響は交通量の増加程度と想定している。しかし、候補地が1か所に絞り込まれれば、その周辺住民からは簡単に同意は得られないと思う。ごみ処理施設は、迷惑施設と捉えられている面があるので、その安全性をもっと周知すべきであり、そうしなければ住民の理解が得られないと思う。

事務局 現在も、管内には焼却施設2施設と最終処分場3施設があり、その地域の住民に対して稼働状況などを報告し、ご理解いただきながら安全に稼働している。確かに周知不足の点はあるので、その方法なども考える必要があると思う。

参加者 処理施設がどこに整備されても構わないが、ごみ収集車などにより交通量が増加し、渋滞が発生することを懸念する人が多い。国道284号は、現状でも大型トラックが多く、雨や雪の日は渋滞になる。今までのデータから、本当に大丈夫なのか確認してほしい。

事務局 現在、一関清掃センターと大東清掃センターの2施設に搬入する車両は、収集車と一般の車両を合わせて1日当たり143台程度であり、新施設も同程度になると思われる。渋滞対策としては、国道284号に限らず、右折レーンや左折の際の退避レーンの整備が必要なようであり、そういう交通安全対策をとりながら施設を整備する。また、地元の方々だけではなく、いろいろな方からご要望をいただき、それをできるだけ反映した形で施設を整備したい。

参加者 国道284号と取付道との交差点付近における交通安全対策の説明があったが、国道284号全体の交通量が増えると思うので、全体的な視点で交通安全対策を要望する。

事務局 その点についてもしっかりと検討したい。

10 担当課 総務管理課

住民等説明会要旨

1 説明会 エネルギー回収型一般廃棄物処理施設・新最終処分場住民説明会

2 開催日時 令和2年11月8日（日）午前9時30分から午前11時5分まで

3 開催場所 牧沢集会所

4 参加者 9人

5 事務局

佐藤善仁副管理者、高橋邦夫副管理者、村上秀昭事務局長、小野寺啓総務管理課長、
小野寺正行一関清掃センター所長、菅原彰大東清掃センター所長、
吉田健総務管理課施設整備係長、中村謙介総務管理課主査、
一般財団法人日本環境衛生センター7名
(以下、日環センター)

6 説明

(1) 第3回説明会の概要について

(2) 検討状況について

(3) 今後の予定について

(4) 情報提供「今日の一般廃棄物処理施設」

7 あいさつ

お忙しい中お集まりいただき感謝申し上げます。

参加者には新型コロナウイルス感染症対策としてのマスクの着用、入り口での手指消毒、体温計測などにご協力をいただき、感謝申し上げます。

本日は、前回9月に開催した第3回説明会以降に検討してきた新処理施設及び新最終処分場の施設規模の案、新処理施設で回収するエネルギー量の見込み、施設整備候補地の評価の案について説明する。

候補地の評価については、検討した全ての評価項目の評価作業を終えた状況を案として説明するが、組合として建設候補地を絞り込むためには、構成市町である一関市及び平泉町との協議などを経る必要があり、年内に絞り込みを終えることを目標としている。

多くのご質問、ご意見をいただきたいと思います。

8 説明内容

(1) 前回の住民説明会の概要について

令和2年11月発行組合広報誌「くらしの情報」により事務局から説明した。

(2) 検討状況について

① 新処理施設の施設規模（案）について

焼却対象ごみの将来推計から計算し、1日当たりの処理能力を106トンの施設規模とする案を説明した。

② 新最終処分場の施設規模（案）について

埋立量の将来見込から計算し、埋立容量を126,800立方メートルの施設規模とする案を説明した。

③ 新処理施設のエネルギー量の見込みについて

①の施設規模案から見込まれるエネルギーの種類と量の見込について説明した。

④ 候補地の評価（案）について

新処理施設と新最終処分場の整備候補地の評価について、予定していた評価作業が完了したことから、新処理施設は「弥栄字一ノ沢ほか」が、新最終処分場は「千厩字北ノ沢ほか」が最適な整備候補地であるとした評価案の内容を説明した。

(3) 今後の予定について

(2)と合わせて事務局より説明した。

(4) 情報提供「今日の一般廃棄物処理施設」

日環センターより情報提供を行った。

9 質疑応答

参加者 新処理施設の処理方式について、焼却を基本として堆肥化方式などの資源化率の高い処理方式の付加的な導入を引き続き検討することのだが、その検討はしたのか。

日環センターの論文に、全量焼却ではなくバイオガス化施設の併設により、二酸化炭素排出量を抑制できるとしているものがある。新処理施設の処理方式の検討にあっては、エネルギー収支や二酸化炭素排出量を試算した上で行ったのか。

事務局 付加的な処理方式については、今後、検討していくこととしている。

処理方式の検討は、焼却方式や非焼却方式のうち、現実に採用されている様々な方式をリストアップし、各方式の導入実績や建設費の傾向、所要面積などを挙げて比較した。施設の詳細が決まっていないので、実績を踏まえて傾向や動向の比較を行った。

焼却方式とバイオガス化施設を併設した事例もあるが、稼働が難しくなっている施設があるという事実もある。バイオガスは嫌気性発酵であり、非常に反応速度が遅いため、非常に巨大な施設になる。臭気対策についても気を遣い、可燃性ガスを扱うため、それに対する対策や留意も必要となる。

行政としては、信頼性や安定性という評価に重みを置く必要もあり、焼却方式を基本とする評価結果となった。

建設候補地が決まれば、環境アセスを2年から3年かけて進めることになる。プラントの構成を具体的にどうするかは、この環境アセスの期間を利用して検討していくことになる。

参加者 新処理施設の候補地は「弥栄字一ノ沢ほか」の評価が高いが、新処理施設はエネルギー回収施設となり、回収したエネルギーは住民のために利用されることになると思う。その利便性についても考慮されるべきであり、住民全員が利用できるような場所を考える必要もあると思う。「真柴字堀場ほか」は学校なども近くにあり、住民が利用しやすい。こういう点も評価してほしい。

事務局 4か所のうち、「真柴字堀場ほか」が人口集中地区に最も近い候補地である。エネルギーの活用面からは人口集中地域に近い方が良い点もある。

本日説明したのは、どういった施設が望ましいか、そのためにはどのような場所が適当であるかという点から評価してきた結果である。説明会は、評価の案に対する意見をいただくために開催している。一方、評価の中で一番重要視するべきは何かという議論も必要である。あくまでも事務的、客観的な点からの評価であるので、新たな視点があるのか、特定の評価について、政策という面から重要視するべきであるのかなどの検討はこれからになる。

いただいた意見については配慮したい。

参加者 新処理施設の施設規模を算出する基礎となる令和9年度の排出量は、人口や1人当たりの排出量などをどのように見通したのか。

事務局 一関市と平泉町の人口ビジョンと、過去の処理実績の推移を考慮して、令和9年度の排出量を推計したものである。住民1人当たりの排出量は、一関市と平泉町で減量目標を立てているが、現時点の目標に届いていないため、そういった分を修正し、5パーセント程度減少すると見込んでいる。

参加者 施設の具体的な話は建設場所が決まってからの話であり、どのような施設とするかは大きな会場で住民みんなで話し合うべきである。早く建設場所を決めてほしい。

事務局 本日説明したのは、候補地評価の案であり、確定したものではない。この後、組合を構成する一関市と平泉町との協議を経て、年内に組合として絞込みを行う。説明会も繰り返していきたい。これまでの説明会は、各候補地の近くで開催し、できるだけ候補地周辺の住民が参加しやすいように進めてきたが、今後は住民説明会の持ち方も併せて検討していきたい。

参加者 候補地の最終的な決定は年内になるのか。

事務局 年内を目標としているのは、組合として1か所の候補地に絞り込むということ

である。その後、その絞り込んだ場所の地元や地権者からの合意を得られなければ進めることはできない。また、施設の整備に当たっては、組合と構成市町の議会において事業予算の議決も得なければならない。

参加者 新処理施設の候補地は、どれも国道284号沿いに位置している。どの候補地の施設が整備されても交通の流れに変化を生じると思う。国道284号と工業団地の交差点があるが、いつも混雑しており、新処理施設ができればさらに混雑すると思う。交通安全対策をお願いする。

事務局 国道284号は交通量が多く、施設整備に伴う交通安全対策の要望を多くいただいている。そういった対策は必要だと思う。なお、新処理施設にごみを搬入する車両は、令和元年度実績では1日当たり140台程度である。

参加者 新処理施設における発電出力1,633キロワットは、施設規模の日量106トンを基本としたものと思う。106tは災害廃棄物を考慮しての規模であり、災害廃棄物はいつも発生するものではないので、それだけの発電はできないのではないか。

事務局 今後、処理するごみ量は減少していくが、施設整備後20年間程度は同程度の発電できる能力の設備を整備することで計画したものである。

10 担当課 総務管理課

住民等説明会要旨

- 1 説明会 エネルギー回収型一般廃棄物処理施設・新最終処分場住民説明会
- 2 開催日時 令和2年11月8日（日）午後1時30分から午後3時5分まで
- 3 開催場所 弥栄市民センター平沢分館
- 4 参加者 16人
- 5 事務局

佐藤善仁副管理者、高橋邦夫副管理者、村上秀昭事務局長、小野寺啓総務管理課長、小野寺正行一関清掃センター所長、菅原彰大東清掃センター所長、吉田健総務管理課施設整備係長、中村謙介総務管理課主査、一般財団法人日本環境衛生センター7名（以下、日環センター）

6 説明

- (1) 第3回説明会の概要について
- (2) 検討状況について
- (3) 今後の予定について
- (4) 情報提供「今日の一般廃棄物処理施設」

7 あいさつ

お忙しい中お集まりいただき感謝申し上げます。

参加者には新型コロナウイルス感染症対策としてのマスクの着用、入り口での手指消毒、体温計測などにご協力をいただき、感謝申し上げます。

本日は、前回9月に開催した第3回説明会以降に検討してきた新処理施設及び新最終処分場の施設規模の案、新処理施設で回収するエネルギー量の見込み、施設整備候補地の評価の案について説明する。

候補地の評価については、検討した全ての評価項目の評価作業を終えた状況を案として説明するが、組合として建設候補地を絞り込むためには、構成市町である一関市及び平泉町との協議などを経る必要があり、年内に絞り込みを終えることを目標としている。

多くのご質問、ご意見をいただきたい。

8 説明内容

- (1) 前回の住民説明会の概要について

令和2年11月発行組合広報誌「くらしの情報」により事務局から説明した。

- (2) 検討状況について

- ① 新処理施設の施設規模（案）について

焼却対象ごみの将来推計から計算し、1日当たりの処理能力を106トンの施設規

模とする案を説明した。

② 新最終処分場の施設規模（案）について

埋立量の将来見込から計算し、埋立容量を126,800立方メートルの施設規模とする案を説明した。

③ 新処理施設のエネルギー量の見込みについて

①の施設規模案から見込まれるエネルギーの種類と量の見込について説明した。

④ 候補地の評価（案）について

新処理施設と新最終処分場の整備候補地の評価について、予定していた評価作業が完了したことから、新処理施設は「弥栄字一ノ沢ほか」が、新最終処分場は「千厩字北ノ沢ほか」が最適な整備候補地であるとした評価案の内容を説明した。

(3) 今後の予定について

(2)と合わせて事務局より説明した。

(4) 情報提供「今日の一般廃棄物処理施設」

日環センターより情報提供を行った。

9 質疑応答

参加者 現在のごみ焼却施設の規模は、1日当たりでは、一関清掃センターの150トンと大東清掃性センターの80トンで合計230トンであり、新処理施設は106トンということだが、どのような試算からごみが減少する見込みになるのか。

またどうやって減らしていくのか。

事務局 施設規模の検討に当たり、焼却対象ごみの将来推計を行った。ごみが減少する原因の1つは、一関市と平泉町の人口ビジョンにおける人口減である。もう一つは、令和元年度のごみの発生量に比べて、家庭から出る焼却対象ごみの1人当たり排出量を5パーセント削減することを目標としている。

現在、燃やすごみとして集められたごみの中には、資源物として分別収集している紙類や布類が半分程度含まれており、分別を徹底することにより焼却処理するごみの量を削減させることを考えている。

参加者 新処理施設で回収するエネルギーは、どのように活用するのか。エネルギーを活用する施設のための用地取得計画はどうなっているのか。

事務局 回収するエネルギーについて、電気と熱の回収見込を説明したが、具体的にどのように活用するかは、これからの検討になる。

エネルギーを活用する施設を整備するのか、またはそうではない使い方をするかで必要とする土地の面積が変わる。このようなことを含めてこれから検討していく。

参加者 新処理施設の処理方式として、「各処理方式を比較した結果、焼却方式が優れた処理方式と評価しました。これに加え、堆肥化など、資源化率の高い処理方式を付加的に導入できないか、引き続き検討していきます。」となっているが、これは、まだ検討中なのか。

この処理方式が決定する前に、建設場所が決まってしまうことはあるのか。

事務局 処理方式については、焼却方式にも種類があり、施設の設備構成によっても変わってくる。具体的な施設の内容については、建設場所を決めた後、環境影響評価を2年から3年を要するので、その間に検討を進める形になる。

候補地の選定については、組合を構成する一関市と平泉町との協議を経て、年内に組合として絞込みを行う。説明会も繰り返していきたい。これまでの説明会は、各候補地の近くで開催し、できるだけ候補地周辺の住民が参加しやすいように進めてきたが、今後は住民説明会の持ち方も併せて検討していきたい。

参加者 堆肥化についての話があったが、生ごみは各家庭からは集めないとの話を聞いた。生ごみはどこから集めるのか。

事務局 生ごみの排出元には2種類ある。一つは一般家庭、もう一つはスーパーや飲食店などの事業所である。堆肥化する場合は、これらの生ごみを処理することになるが、どの程度の処理規模とするかもこれから検討が必要になる。

新しい施設を整備するに当たり、一関市と平泉町ではどういった処理が望ましいのかをゼロベースで検討しており、ごみの分別をこれ以上細分化するかどうかもこれから検討していくことになる。

ある程度考えがまとまったら、その内容を示し、意見をいただきたい。

参加者 施設自体には問題がないと思っている。

余熱活用施設を整備した場合、その管理は市が行うのか。それとも、いずれは地元が管理しなければならないのか。

また、地元で整備する施設に対する要望がある場合、相談できるのか。

事務局 余熱の活用方法については、これからの検討となるが、施設を整備した場合の管理の方法についても、皆さんと協議をして行きたい。

余熱は、一関市と平泉町共通の課題を解決できるような使い方が望ましいが、地元の意見もいただきながら進めていきたい。

参加者 高速堆肥化については、是非進めてほしい。各家庭から出る生ごみも、地域で集めるなど工夫すれば何とかできるのではないかと思うので、実現してほしい。

安全な施設とされているが、もしものことがあった場合でも安全の確保をお願いする。

事務局 堆肥化については、これからの検討になる。堆肥化を進めるためには、引取先というのも大事であり、そういった点についても十分に検討したい。

健康に関する基準については、環境基準を十分に満たす施設を整備することになると本日説明をした。もう一つの安全に対する心配として、環境負荷を少なくするため、施設が高度化、複雑化しているが、故障や事故については問題ないかというのがあると思う。施設規模の計算の説明で、年間365日のうち施設の稼働日数を280日として計算していることを説明した。この80日以上稼働しない期間は、安全確保のためのメンテナンスなどを実施する日数となる。こういったことが実感できないと不安が無くならないと思う。どう情報を開示し、透明化を保つか、自主基準をどうするかについても、話し合い協力しながら進めていきたい。

10 担当課 総務管理課

住民等説明会要旨

- 1 説明会 エネルギー回収型一般廃棄物処理施設・新最終処分場住民説明会
- 2 開催日時 令和2年11月9日（月）午後6時30分から午後7時35分まで
- 3 開催場所 平泉町役場
- 4 参加者 14人
- 5 事務局

青木幸保副管理者、佐藤善仁副管理者、高橋邦夫副管理者、村上秀昭事務局長、小野寺啓総務管理課長、小野寺正行一関清掃センター所長、菅原彰大東清掃センター所長、吉田健総務管理課施設整備係長、中村謙介総務管理課主査、一般財団法人日本環境衛生センター6名（以下、日環センター）

6 説明

- (1) 第3回説明会の概要について
- (2) 検討状況について
- (3) 今後の予定について
- (4) 情報提供「今日の一般廃棄物処理施設」

7 あいさつ

お忙しい中お集まりいただき感謝申し上げます。

参加者には新型コロナウイルス感染症対策としてのマスクの着用、入り口での手指消毒、体温計測などにご協力をいただき、感謝申し上げます。

本日は、前回9月に開催した第3回説明会以降に検討してきた新処理施設及び新最終処分場の施設規模の案、新処理施設で回収するエネルギー量の見込み、施設整備候補地の評価の案について説明する。

候補地の評価については、検討した全ての評価項目の評価作業を終えた状況を案として説明するが、組合として建設候補地を絞り込むためには、構成市町である一関市及び平泉町との協議などを経る必要があり、年内に絞り込みを終えることを目標としている。

多くのご質問、ご意見をいただきたい。

8 説明内容

- (1) 前回の住民説明会の概要について
令和2年11月発行組合広報誌「くらしの情報」により事務局から説明した。
- (2) 検討状況について
 - ① 新処理施設の施設規模（案）について

焼却対象ごみの将来推計から計算し、1日当たりの処理能力を106トンの施設規模とする案を説明した。

② 新最終処分場の施設規模（案）について

埋立量の将来見込から計算し、埋立容量を126,800立方メートルの施設規模とする案を説明した。

③ 新処理施設のエネルギー量の見込みについて

①の施設規模案から見込まれるエネルギーの種類と量の見込について説明した。

④ 候補地の評価（案）について

新処理施設と新最終処分場の整備候補地の評価について、予定していた評価作業が完了したことから、新処理施設は「弥栄字一ノ沢ほか」が、新最終処分場は「千厩字北ノ沢ほか」が最適な整備候補地であるとした評価案の内容を説明した。

(3) 今後の予定について

(2)と合わせて事務局より説明した。

(4) 情報提供「今日の一般廃棄物処理施設」

日環センターより情報提供を行った。

9 質疑応答

参加者 新処理施設は、焼却方式を基本として100トンを超える施設規模で計画しているということだが、施設規模はできるだけ小さい方がいいと思う。余熱を電気や温水として利用するとのことだが、燃やすものが無くなれば余熱活用施設は使えなくなる。ごみが減少した場合、焼却施設や余熱活用施設はどうなるのか。他の自治体の事例などを紹介してほしい。

事務局 焼却処理は、廃棄物処理における4番目の手段である。

1番目はごみを減らすリデュース、2番目は再利用するリユース、3番目がマテリアルリサイクル、4番目が焼却処理してエネルギーを回収するサーマルリサイクルである。

生産された物が永遠にリサイクルされていくということは難しい。ごみの減量については、これまでもこれからも努力していく考え方で施設整備を計画している。

例えば、東京都も同様の考えであり、いろいろなリサイクルのルートをつくりごみの減量化が進んでいる。工場の建替えに当たっては施設規模をスケールダウンして整備するというような形になっている。

10 担当課 総務管理課

住民等説明会要旨

- 1 説明会 エネルギー回収型一般廃棄物処理施設・新最終処分場住民説明会
- 2 開催日時 令和2年11月10日（火）午後6時30分から午後7時50分まで
- 3 開催場所 東山市民センター
- 4 参加者 10人
- 5 事務局

佐藤善仁副管理者、高橋邦夫副管理者、村上秀昭事務局長、小野寺啓総務管理課長、小野寺正行一関清掃センター所長、菅原彰大東清掃センター所長、吉田健総務管理課施設整備係長、中村謙介総務管理課主査、一般財団法人日本環境衛生センター6名（以下、日環センター）

6 説明

- (1) 第3回説明会の概要について
- (2) 検討状況について
- (3) 今後の予定について
- (4) 情報提供「今日の一般廃棄物処理施設」

7 あいさつ

お忙しい中お集まりいただき感謝申し上げます。

参加者には新型コロナウイルス感染症対策としてのマスクの着用、入り口での手指消毒、体温計測などにご協力をいただき、感謝申し上げます。

本日は、前回9月に開催した第3回説明会以降に検討してきた新処理施設及び新最終処分場の施設規模の案、新処理施設で回収するエネルギー量の見込み、施設整備候補地の評価の案について説明する。

候補地の評価については、検討した全ての評価項目の評価作業を終えた状況を案として説明するが、組合として建設候補地を絞り込むためには、構成市町である一関市及び平泉町との協議などを経る必要があり、年内に絞り込みを終えることを目標としている。

多くのご質問、ご意見をいただきたい。

8 説明内容

- (1) 前回の住民説明会の概要について

令和2年11月発行組合広報誌「くらしの情報」により事務局から説明した。

- (2) 検討状況について

- ① 新処理施設の施設規模（案）について

焼却対象ごみの将来推計から計算し、1日当たりの処理能力を106トンの施設規

模とする案を説明した。

② 新最終処分場の施設規模（案）について

埋立量の将来見込から計算し、埋立容量を126,800立方メートルの施設規模とする案を説明した。

③ 新処理施設のエネルギー量の見込みについて

①の施設規模案から見込まれるエネルギーの種類と量の見込について説明した。

④ 候補地の評価（案）について

新処理施設と新最終処分場の整備候補地の評価について、予定していた評価作業が完了したことから、新処理施設は「弥栄字一ノ沢ほか」が、新最終処分場は「千厩字北ノ沢ほか」が最適な整備候補地であるとした評価案の内容を説明した。

(3) 今後の予定について

(2)と合わせて事務局より説明した。

(4) 情報提供「今日の一般廃棄物処理施設」

日環センターより情報提供を行った。

9 質疑応答

参加者 最終処分場候補地の評価案では、他の候補地に比べて「長坂字長平ほか」の評価が劣っている。今後、1か所に絞りむとのことだが、「長坂字長平ほか」が候補地として選ばれる可能性はあるのか。

事務局 本日説明した内容は、施設整備検討委員会で評価作業を行った結果である。今後、組合を構成する一関市及び平泉町と協議を経た上で、組合として1か所に絞り込みを行う。この評価結果のおりの絞り込みとなるかは、現時点で確定的な話はできない。

参加者 最終処分場の今後の予定について確認する。最終処分場に関しては、跡地利用が非常に重要なことであると認識している。1か所に絞り込む際には、跡地利用の計画まで提示されるのか。

事務局 年内に予定する絞り込みとは、組合として1か所に絞り込むということであり、地元や地権者と合意はその先になる。現在ある3か所の最終処分場においても、跡地利用については、埋立てが完了する少し前に施設周辺の方と協議をしながら決めていくことになると思っている。新最終処分場の整備を進めていくが、跡地利用までを計画するものではない。

参加者 「弥栄字一ノ沢ほか」と「千厩字北ノ沢ほか」が最適地との評価案であり、今後、政策的検討を経て絞り込まれるとのことだが、政策的検討とは何を指すのか。

事務局 本日示した評価案は、事務的に作業を進めたものである。今回、8会場で説明会を開催する中で、新たに追加すべき評価項目についての意見もいただいております、それらを評価に反映させていくこととしている。

新たな廃棄物処理施設の整備や管理運営は、巨額の費用を要する大事業になる。こうした大きな事業を進めるに当たっては、施設の建設・運転により、住民にもたらされる様々な利益があると思うが、組合としては、廃棄物処理という点以外の部分については検討をしていない。そういった点については、まさに政策的分野になるものであり、一関市と平泉町との協議の中でそういった意思形成ができ上がるものであると思っている。

参加者 新施設の整備には、国や県の交付金などを充てるものと思うが、その金額は、事業費の何割程度と見込まれるのか。

事務局 新施設の整備には国の交付金を充てることとしており、事業費の概ね3分の1程度を想定している。交付金を充てた残りについては、借入れをする予定だが、返済額の約47パーセントは、国から財政措置される見込みである。

10 担当課 総務管理課